

配慮

i

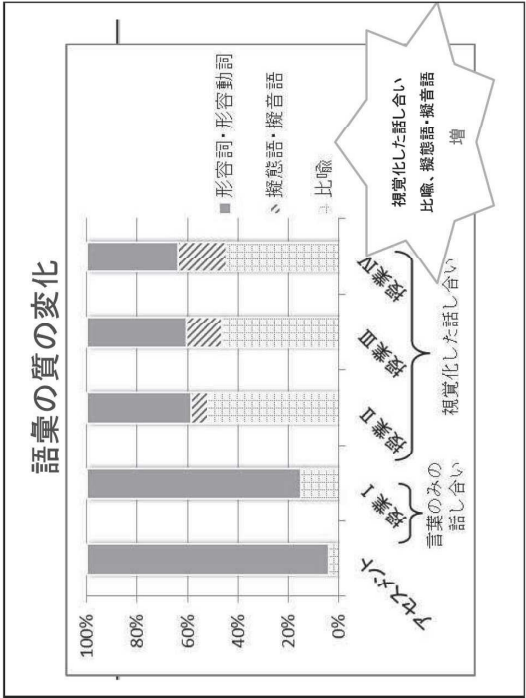
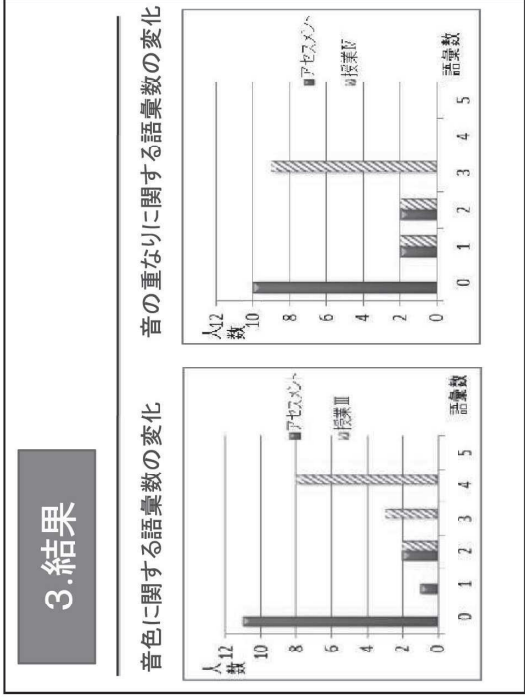
絵カードに名前を記入

ii

作業を取り入れる

iii

絵カードに身近な絵を用いる



語彙の質の変化

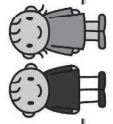
実態把握の授業時

授業Ⅳ

元気
きれい
明るい
楽しい
するどい
さわやか
ゆたか
ゆかい

いそいでいる
しずか
おいかけている
つよそうな
ドスン
やさしい
おどっている
葉がおちていく
足がはやそうな
ほえているような
泣いているような
戦っているような
台風におされながら頑張っている
花がさくような
光っている
おだやかな
あわてる
など

児童の様子



学級全体

絵カード

音楽の特徴を捉えようとする聴き方に

話し合いの視覚化

友達との感じ方の異同を探し、楽しむように

児童の様子



特別な支援が必要で
あると感じられた児童
A児・B児・C児・D児

絵カード

絵カードを導入後、4人とも語彙数 増
ABD:絵カードを手がかりに書く
A:枠にはいりきれないほど書く
D:擬音語や擬態語で、音楽を表す

話し合いの視覚化

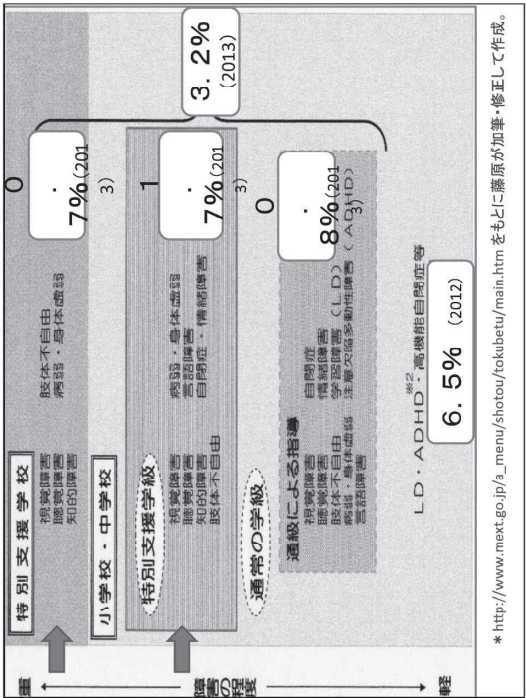
4人とも友達と意見を交換
A:自分の絵カードを指さして示し伝える
B:タイトルに自分の感じたことが採用され笑顔に
C:話し合いシートを作成する作業後は、集中できていて
中心となってタイトルを考える
D:Dの擬音語や擬態語での表現が、クラス中に広がり嬉しそう
に発表する

教科教育と特別支援教育のコラボレーション
ー音楽科を事例としてー

1. 教科教育と特別支援教育の
コラボレーションがめざすのは...

2. 通常の学級における音楽科授業の試案

3. 「交流及び共同学習」における
音楽科授業の活動例



小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の
交流及び共同学習の実態（特別支援教育総合研究所、2011）

調査時期：2005. 2～2007. 8
調査対象：全国の特別支援学級が設置されている
小・中学校から抽出した48校に在籍する
児童・生徒269人

交流及び共同学習の実施状況
音楽80. 7％ 生活75. 9％ 体育74. 7％
図工・美術67. 3％ 技術・家庭67. 2％ 理科55. 7％
社会50％ 国語24. 9％ 英語17. 2％ 算数・数学12. 7％

インクルーシブ教育システム構築のため
の特別支援教育の推進（文部科学省、2012）

基本的な方向性としては、障害のある子どもと
障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学
ぶことを目指すべきである。その場合には、それ
ぞれの子どもが、授業内容が分かり学習
活動に参加している実感・達成感を持ちなが
ら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身
に付けていけるかどうか、これが最も本質的な視
点であり、そのための環境整備が必要である。

インクルーシブ教育システム構築に取り組む際に
着手すべき課題（特別支援教育総合研究所、2008）

1. 「一人一人の教育的ニーズ」に応じる形で、特別な指導
が「多い～少ない」の連続体として提供できる学習形態
の存在が必要であること。

2. 共生社会の一員として生活すること、つまり、同世代の
児童生徒と同じ学習経験を経て育つ学習環境が整えら
れていること（特別支援学校と小・中学校の教育課程の
連続性確保）

3. 「一人一人の教育的ニーズ」に応じた結果、「全て特別
な指導」となる場合の学習環境が整えられていること
（特別支援学校の継続的存在）

特別支援学校（知的障害教育）音楽科器楽領
域における発達段階の設定（藤原・福島、2014）

	小学部 1段階	小学部 2段階	小学部 3段階	中学部	高等部 1段階	高等部 2段階
音楽療法 の配慮点 （宇佐川、 2007）	I（感覚） II（知覚）	II（知覚） III（象徴）	IV（概念）	IV（概念）		
チェンブリ スト（興座 ら、2004）	①（0・0-0・2） ②（0・3-0・5） ③（0・5-0・8） ④（0・9-0・11）	⑤（1・0-1・5） ⑥（1・6-1・11） ⑦（2・0-2・11）	⑧（3・0-3・11） ⑨（4・0-4・11）	⑩（5・0-5・11） ⑪（6・0-6・11）		裏は、発達段 階の対応のみ を示している。 障害のある子 どもの指導 では、生活 年齢、障害 特性、興味・ 関心などから 多面的総合的 に本人の教育 的ニーズを把 握する必要が ある。
保育所 保育指針 （幼稚園 教育要領）	0・0-1・3	1・3-2・0	2・0-6・0			
小学校 学習指導 要領				低学年	中学年	高学年

♪ 音楽を聴こう・表現しよう(鑑賞・身体表現)

1. 3カウントの表現 パターン模倣

先生役:パターン実行 生徒役:模倣

2. 3カウントの表現 即時対応模倣

先生役:パターンくずし 生徒役:模倣

3. 白鳥の表現 象徴的模倣

先生役:白鳥をイメージして 生徒役:模倣

・・・4. 音楽を表現

音楽をよく聴いて 要素を表現 役割自由

音楽活動のユニバーサルデザインとなりうる
授業づくりの工夫(藤原, 2013)

分析対象

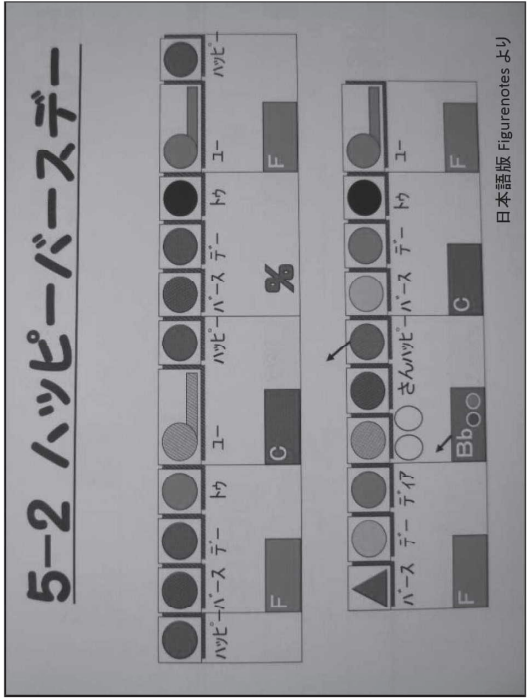
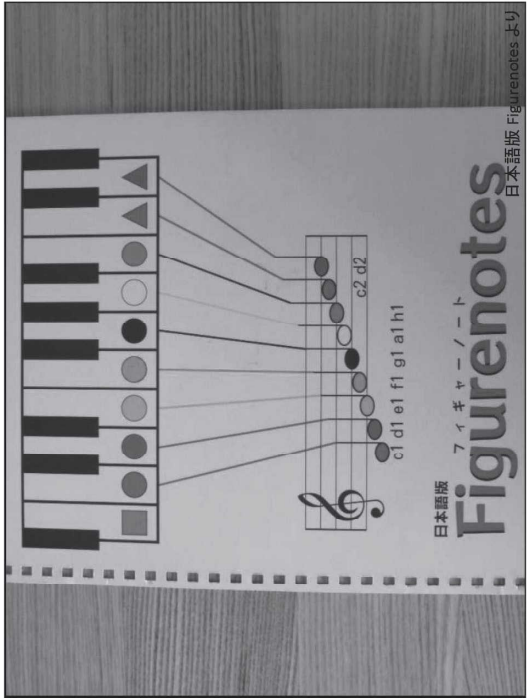
『教育音楽』(2007. 10～2012. 9)に掲載された
音楽の授業に関わる指導事例のうち、
障害のある子どもを対象とした事例60件。

分析方法

「学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン」(キャスト, 2011)に
示されたユニバーサルデザイン設計のための事項を指標として、
音楽活動のユニバーサルデザインとなりうる指導の工夫を抽出。

鑑賞

- ・知覚させたい楽曲の要素をわかりやすく提示する。
- ・身体や視覚媒体を用いた感受・表現を促す。
- ・人と共に表現する機会を設ける。



五音音階(稲田, 2004)

五音音階による演奏はまた、西洋の全音階システムの束縛から解放されます。五音音階の構成音は、互いに支配関係がゆるやかなため、和声学上の規則にとらわれずに音を連ねていくことができます。また一方で、五音音階は音の連なりを自然にまとめあげ、素朴なフレーズ感をもたらし力もあります。

日本の伝統音楽

全音的五音音階 「民謡音階」「律の音階」

2つ以上の音が同時に鳴っても不協和な響きを生まない。

半音的五音音階 「都節音階」「琉球音階」

半音どうしの音が同時に鳴ると不協和を生じる。

♪即興演奏をしよう(音楽づくり・・・器楽)

5音音階

ド ミ ファ ソ シ (琉球)

レ ミ ソ ラ シ (律)

ブルーノートスケール

ファ ラ ♭ シ ♭ シ ド ミ ♭

サウンドブロック



音楽活動のユニバーサルデザインとなりうる

授業づくりの工夫(藤原, 2013)

分析対象

分析方法

前掲スライドと同様

器楽

- ・表現を促しやすい構造の楽曲(音階)を選んだり、またそのように楽曲をアレンジする。
- ・楽譜を多様な形式でわかりやすく提示する。
- ・楽器に演奏しやすいような工夫を加えたり、簡単な奏法で自由に幅広い表現を楽しめる楽器を使用する。
- ・人と共に表現したり、ソロ場面やステージ発表の機会を設ける。

米国における障害のある児童生徒の カリキュラム修正範囲の類型化(野口・米田, 2012)

1. 教育方法への変更

- 1) 教育内容の提示方法への変更(教材への工夫)
- 2) 児童生徒の返答方法への変更

2. 教育内容への変更

- 1) 達成水準(教育目標)への変更、
同じ教科の領域で難易度を変える
- 2) 通常カリキュラムにプラスアルファとしてのスキルを指導する
3. 個別のカリキュラムの作成
- 1) 個々のニーズに基づいた機能的スキル、生活スキル、
社会的スキル
- 2) 下学年の教育内容の指導